

# 熱中症対策ポイント | スタッフ編

## 芸能現場における熱中症から人を守る基本原則

熱中症対策は「自己管理」に委ねるものではなく、現場で確実に運用される仕組みが必要です。無理をしないように伝え、体調不良を申し出やすい環境を整えてください。「やめてください」「休んでください」と周囲が声をかけられることが安全につながります。

事前にできる対策は確実に実施してください。プレクーリング（事前冷却）、冷却用品の準備、適切な水分・塩分補給（取りすぎに注意。高血圧等は 医師に相談）など、リスクが高い条件では一層の配慮が必要です。

高齢者や若年者など、発言しにくい立場への配慮も重要です。安全対策に要する費用や設備は必要経費として位置付け、現場全体で共有してください。

■ ■ ■

### 1. スタッフの役割と責任

スタッフは、現場で気づいた点を共有し、安全確保につながる対応が取れるよう、関係者と連携してください。

### 2. 【予防】スタッフが担う基本的な対応

- 各部署の職長（チーフ）は、休憩と水分補給を作業計画に組み込むことを徹底してください
- WBGT（暑さ指数）測定機を、機材の周辺や暑くなりやすい場所に設置し、定期的に数値を確認・共有してください。
- 飲食が禁止されている作業場所がある場合は、代替となる補給場所を必ず確保して周知してください。

### 3. 【見つける】異変に気づくために

- 新人や若年スタッフは、体調不良を申し出にくい傾向があります。顔色・動き・声の変化に注意してください。
- 各部署の職長・チーフは、「いつもと違う」と感じた段階で、熱中症を疑ってください。

### 4. 【判断・対処】進行を止める判断

- 熱中症が疑われる場合は、作業・進行を一時停止してください
- 舞台監督等は、「安全確保のため照明を上げる」「作業を止める」など、現場全体に分かる形で宣言してください。
- 対応中は、決して一人にせず、必要に応じて#7119（救急安心センター事業）等を活用してください。

### 5. スタッフに求められる姿勢

現場で異変に気づいた際に、状況を共有し対応につなげることは、現場の安全を確保するための大切な役割の一つです。迷った場合は、一人で抱え込まず、進行状況や立場にかかわらず、まず周囲と情報を共有してください。

あわせて、現場全体の安全確認として、「熱中症を防ぐためのセルフチェックリスト」を活用し、作業開始前や適宜、確認・共有を行うことを推奨します。

### 補足

- このガイドラインは、基礎編を土台とした役割別のポイントの補足資料です
- 現場の状況に応じて、制作・出演者・スタッフが連携し、柔軟に運用してください